令和6年度　年間指導計画

A科：生物科学科　B科：環境科学科　C科：食農科学科

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	単位数	2	履修学年・クラス	3学年全学科
担当者		使用教材	「高等学校　地理総合」(第一学習社)、標準高等地図(帝国書院)				

学習目標	地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために，社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し，その課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において，主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。
学習方法	①世界の生活文化の多様性や，防災，地域や地球的課題への取組などを理解するとともに，地図や地理情報システムなどを用いて，調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる。 ②地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらをもとに議論したりする。 ③地理に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土に対する愛情，世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚する。

学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
知	知識・技能(技術)	世界の生活文化の多様性や，防災，地域や地球的課題への取組などを理解するとともに，地図や地理情報システムなどを用いて，調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思	思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらをもとに議論したりする力を養う。
態	主体的に取り組む態度	地理に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土に対する愛情，世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

※定期考査については、上記の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	単元(題材)	学習内容	評価の観点 知	評価の観点 思	評価の観点 態	単元(題材)の評価規準	評価方法
前期中間	第1編1章　地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図 ①目的地への行き方 ②地球上の位置 ③世界の時差 ④世界地図の見方・使い方 ⑤地図から読み取る情報 ⑥デジタル化された地図 ⑦地理情報システムの活用	・地図を持たない人々の生活を想像し，地図の有用性に気づくとともに，利用しやすい工夫が現在まで続けられていることを理解する。 ・地理学習の基本的な技能として，地図の縮尺や方位に注意しながら，地図上の情報を読み解く有用性を理解する。 ・インターネットを使ってさまざまなウェブ地図にアクセスし，日常的に使われているGNSSやGISなど，新しい地図表現の役割を理解する。	○	○	○	・新聞広告や図書館の資料，インターネット検索などを用いて，身の回りの地図の活用事例について調べることができている。 ・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたこと，地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し，教科書掲載の時差の計算のワークに積極的に取り組むことで，日本の標準時における諸外国の時間と生活のようすを想像することができる。 ・メルカトル図法，正積図法，正距方位図法の特徴と欠点を，知識として身につけるとともに，地球儀と世界地図を用いて，球面を平面に表現する際の特徴と問題点を，考えることができる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
	2節　国家の結びつきとグローバル化する社会 ①国家の領域と国境 ②日本の領域とさまざまな領土問題 ③国家をこえた結びつき ④交通機関の発達と縮小する世界 ⑤情報・通信で一体化する世界 ⑥拡大する世界の貿易と物流 ⑦グローバル化と人の移動による結びつき	・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し，交通・通信の発達によって，生活，社会，産業，国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 ・さまざまな情報手段を用いて，現在世界で起こっている国境・領土問題について調べるとともに，日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものが存在するか，理解する。 ・グローバル化の中で，人・「モノ」・資本の国際移動の複雑化や，国家的結びつきの変化に気づき，国家が自国の利益などのために結んでいる国際機関の変遷を学習する。 ・貿易の拡大に伴い専用船の開発・普及が進み，コールドチェーンの整備により人々の生活が豊かになっていることを，具体的な実体験を通して理解する。	○	○	○	・単に交通・情報・通信手段の発達に目を向けるだけでなく，それらがどのように地域を結びつけ，変化させているかを地図から考えることができる。 ・インターネットショッピングを事例に，情報技術や物流，金融など，さまざまなサービスがかかわってくることを，実体験とともに考える。	
前期末	第2編　国際理解と国際協力 1章　生活・文化の多様性と国際理解 ①世界の生活・文化を写真でつかもう ②人々の生活に彩りを与える気候	・図書館の本やインターネットから，世界の生活・文化を示した写真を探し，写真の中にある地理的環境を読み取り，世界は地理的環境の影響を受けた特徴ある景観で成り立っていることを学ぶ。 ・世界の気候帯ごとに，どのような特徴があり，どのような生活が営まれているのかを学習する。	○	○	○	・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを，気候の面からとらえる。 ・人々の生活様式の差異を通して，地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
	③「衣」から見る世界 ④「食」から見る世界 ⑤「住」から見る世界 ⑥暮らしを豊かにする産業 ⑦宗教と人々の暮らし ⑧暮らしを楽しむための文化 ⑨多様性に富んだ世界の人々との共生	・その地域の自然環境と，歴史や文化といった社会環境の影響を色濃く受けた世界の特色ある生活文化を，さまざまな衣食住の事例を通して学ぶ。 ・世界の特色ある生活文化にはどのようなものがあるか関心を持ち，地域固有の自然環境や歴史，風土に基づいて形成されたと同時に，グローバル化のもとで新たな変化が生じていることを学習する。	○	○	○	・祭りやスポーツ，音楽などの伝統と現代社会の影響を受け，変化が見られる事例を学び，現代世界の諸事象を読み解く視点を身につける。 ・多様なアイデンティティに持つ世界の人々と共生していくためには，他者の文化を尊重するとともに，自らの文化を知ることが重要であることを学ぶ。	

学期	単元(題材)	学習内容	評価の観点 知	評価の観点 思	評価の観点 態	単元(題材)の評価規準	評価方法
後期中間	第2編　国際理解と国際協力 2章　地球的課題と国際協力 1節　持続可能な社会を目指して ①持続可能な開発目標(SDGs) ②地球的課題の地理的な側面 2節　すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて ①貧困問題 ②人口問題 ③食料問題 ④持続可能な水の利用 ⑤健康・福祉問題 ⑥教育・ジェンダー問題	・5つのPの枠組みを活用して，持続可能な開発目標(SDGs)の考え方を学び，地理で学習する地球的課題が教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。 ・現在，直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し，それらは相互に関連し，地域によって現れ方が異なることを，人口問題，食料問題，居住・都市問題，資源・エネルギー問題，地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 ・地球的課題の解決の困難さや，地域差を学習し，その地域性に応じた取り組みが必要であることを理解する。 ・現在，直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し，それらは相互に関連し，地域によって現れ方が異なることを理解する。 ・人口問題について，先進国の少子・高齢化，発展途上国の人口爆発という対照的な問題が起こっていることを理解する。 ・食料問題について，食料分配の不平等さが飢餓と飽食の地域差を生み出していることを理解する。	○	○	○	・SDGsの達成に向け，さまざまな主体による国際協力の重要性を学ぶと同時に，企業の社会的責任やエシカルな消費者としての取組を通して，自らの行動を見直すことができる。 ・各地球的課題について，地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を図書館やインターネットなどで調べ，話し合う。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
	3節　自然と調和した豊かな社会に向けて ①技術革新と持続可能な産業化 ②限りある資源 ③エネルギー問題 ④都市・居住問題	・身の回りに見られる再生可能エネルギーについて，そのメリットとデメリットを比較して，持続可能な社会に必要なエネルギー構成を構想することができる。 ・資源・エネルギー問題について，資源の限界性と偏在性を理解し，原子力発電を含む世界のエネルギー利用の変化と新エネルギー開発の必要性について考察する。 ・居住・都市問題について発展途上国ではスラム，先進国ではインナーシティ問題などが現れていることを理解する。	○	○	○	・持続可能なライフスタイルの実現には，さまざまな認証制度を活用した消費者としての行動が重要であることを理解し，身近な認証制度を調べ，まとめることができる。 ・持続可能な都市を実現するためには都市政策と都市計画が欠かせないことを理解し，大ロンドン計画や計画都市ブラジリア，ドックランズの再開発，日本でも注目を集めるようになったグリーンインフラなどの具体的事例の学習を通して，主権者として持続可能な都市の実現に向けた行動を考察することができる。 ・通学路や学校周辺の空き家など，身の回りの都市問題に関心を持ち，地域の課題解決に向け学習した内容を振り返ることができる。	
後期末	4節　現役世代と将来世代のための地球 ①地球温暖化問題 ②陸地の環境問題 ③海洋の環境問題 5節　平和で公正な社会に向けて ①世界の民族と民族問題 ②世界のさまざまな紛争 ③さまざまな対立の解決に向けて ④国際協力とパートナーシップ	・地球環境問題のうち，酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び，世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。 ・生物多様性に配慮した持続可能な産業や生活文化が身近なところで営まれていることを理解する。 ・世界の民族とは，共通の帰属意識(アイデンティティ)を持つ集団であり，世界の多くの国は複数の民族により構成される多民族国家であり，多文化社会を構成して多民族が共生している国もあれば，内部に対立を抱える国も存在することを理解できる。 ・NGOやNPOによる国際協力や，CSRにもとづいた企業の国際協力，消費者の立場で自ら取り組む国際協力など，さまざまな形のパートナーシップについて理解できる。	○	○	○	・一定地域の地理的環境と深く関連し，長い歴史をとおして育まれた民族性について理解した上で，現在発生している民族問題の解決に向けた取り組みを提案することができる。 ・国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し，国際協力について,グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
	第3編　持続可能な地域づくりと私たち 1章　自然環境と防災 ①地球規模で見る地形の姿と自然災害 ②人々の暮らしを取りまく自然環境 ③変動帯の自然と防災 ④湿潤地域の自然と防災 ⑤私たちができる災害への備え	・世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し，多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。 ・変動帯はプレートテクトニクスによって説明され，日本列島周辺は4つのプレートがぶつかり合っていることを理解する。 ・日本に暮らす人々の生活は，気候や局地的な気候，地形などに影響を受けていることを，実体験に基づいて理解する。 ・変動帯で見られる地震や火山の特徴を体系的に学び，その備えについて具体例を通して理解する。 ・防災や減災のために地形図を活用するため，地形図の読図について理解する。 ・降水強度の大きい湿潤な日本の気候環境を把握し，地形に応じた防災・減災のあり方について理解を深める。 ・自然災害に備えるためには日常の備えが重要であり，減災に向けた地域防災力の向上が重要であることを理解する。 ・風水害や土砂災害への備えとしてタイムライン策定の重要性について，教科書のワークに取り組むことで理解を深めることができている。 ・自然災害からの復興を困難にする複合災害について具体的な事例を通して理解し，これまで学んだ対策を組み合わせて備えるために必要な行動について考察できている。	○	○	○	・地形の状態に応じて暮らしてきた日本の村落・都市立地を理解し，地形改変による生活環境の変化が人々の暮らしにどのような影響をもたらしたか考察する。 ・教科書に掲載されている写真や地図・図版を適切に参照し，自然災害が多発する日本列島に，豊かな文化が築かれた背景を考察する。 ・生活に影響を与えている気候，局地的な気候について理解し，気候によって異なった特徴を見せる生活・文化について，インターネットや周りの人から具体例を積極的に聞き出し，グループで話し合う。 ・自然災害の多い日本列島で，人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について，自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに，先人の知恵が詰まった，災害に備え，災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。 ・自然災害に備えるためには，ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに，災害に強い地形や環境について理解し，災害に見舞われた際になるべく被害を減らせる(減災)できるよう，地域防災力を高めるために個々人ができることを積極的に話し合う。 ・自らが住む地域のハザードマップをインターネットで検索したり，市役所や町役場で発行しているハザードマップを入手したりして，最も起こりやすいと想定されている災害は何か，また避難時に障害となるところはどこか，など，地域とそこに住む住民とともに減災に向けて意欲的に取り組む。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
	2章　生活圏の調査と地域の展望 ①地域調査の方法	・地域調査について，積極的な調査を実施できるよう，地域調査の必要性を理解し,地域調査の基本を身につける。	○	○	○	・地域調査の一環として，資料収集・現地調査を行い，的確な統計地図やグラフを作成して報告書をまとめ，発表する。 ・地域調査を通して，地域のさまざまな事象に対し5W1Hの発問を設定して課題を抽出し，その解決策を提案し，共有する。 ・成人年齢が18歳になることを踏まえ，地域調査を通して，地域の課題に対する地方自治体の政策を調べ，主権者として地域の諸課題を解決する方法について考察を深めることができている。	